

開催報告

国際シンポジウム 題名	アジアにおける地球環境学の教育・研究に関する京都大学国際シンポジウム	
開催日	令和元年 11 月 26 日～ 令和元年 11 月 28 日（3 日間）	
主催部局	地球環境学堂	
協力部局名	農学研究科、工学研究科、人間・環境学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、東南アジア地域研究所	
開催地	国名	日本
	開催地	京都市
	会場名	京都大学医学部創立百周年記念施設 芝蘭会館（稲盛ホール・山内ホール）
共催大学・機関名	概算要求機能強化経費「海外サテライト形成による ASEAN 横断型環境・社会イノベーター創出事業」	
シンポジウム開催概要	<p>本学芝蘭会館において、アジアにおける地球環境学の教育・研究に関する京都大学国際シンポジウムを開催した。本シンポジウムは、概算要求機能強化経費「海外サテライト形成による ASEAN 横断型環境・社会イノベーター創出事業」との連携のもと実施され、17ヶ国 52 組織（32 大学、20 企業他）からの研究者や学生、環境関連企業など、合計 269 名（大学 244 名、企業他 25 名）が参加した。</p> <p>初日午前は全体セッションが開催され、はじめに山極壽一 総長から開会の辞、舟川晋也 地球環境学堂長による歓迎の挨拶が述べられた。その後、安達一 国際協力機構（JICA）社会基盤・平和構築部長および木村知之 アジア開発銀行（ADB）戦略政策・パートナーシップ局長による基調講演が行われた。続くパネルディスカッションでは、勝見武 地球環境学堂副学堂長の司会の下、基調講演者 2 名および Le Van An フエ農林大学長、北野正雄 理事・副学長による活発な討議が行われた。</p> <p>午後には若手研究者および大学院生らによる 43 件の口頭発表と 73 件のポスター発表が行われた。その後、特別セッションとして京都大学オンサイトラボプロジェクトに関する特別セッションが開催され、河野泰之 副学長によるプロジェクト全体に関する発表に続き、7 件のオンサイトラボがその進捗を発表した。特別セッション終了後には、懇親会も開催された。</p> <p>2 日目は、午前「SDGs 達成のための食糧-環境問題への挑戦」と「中国深圳の京都大学オンサイトラボラトリーでの共同研究活動現況と将来」、午後「国際的高度教育システムのためのフロントライン活動」と「シーズ基金事業：若手研究者との協働のための将来計画」のそれぞれ 2 件のセッションが並行して行われた。その後の閉会セッションでは各パラレルセッションの報告が行われるとともに、今回のシンポジウムの成果および今後の一層の連携に向けた各大学からの意見が述べられ、藤井滋穂 地球環境学堂教授の挨拶により閉会した。最終日には、京都南部クリーンセンター、琵琶湖洗堰・アクア琵琶、および琵琶湖博物館へのスタディツアーを実施し、3 日間のシンポジウムは終了した。</p>	
シンポジウム開催報告を掲載しているホームページ	<p>京都大学のホームページ</p> <p>http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/events_news/department/kankyougaku/news/2019/191128_2.html</p> <p>地球環境学堂ホームページ</p> <p>http://www2.ges.kyoto-u.ac.jp/news/17291/</p>	
参加者数（聴衆を含む）	269 人	